

標 題 : Serum Cholesterol Response to Changes in the Diet
I. Iodine Value of Dietary Fat versus 2S-P
食事中の変化に対する血清コレステロールの反応
I. 食事脂肪のヨウ素価 対 2S-P

著 者 : Ancel Keys, et al. (米国 ミネソタ大学 生理学的衛生学研究室)

掲 載 誌 : Metabolism 14 (7): 747- (1965)

要 旨 : ヒトでカロリーが等しいと、食事脂肪の変化は血清コレステロール血の変化を生じ、それは平均的に、関連する食事中の飽和(S)と多価不飽和(P)の脂肪酸グリセリドから供給される総カロリーのパーセント比からオリーブ工場排水から予測可能である。

S と P は反対の作用を有し、2つの食事の間の差を Δ と呼ぶと一般的に、 Δ コレステロール(mg/100ml) = $2.7\Delta S - 1.3\Delta P$ である。

多価不飽和脂肪酸中の二重結合数の2を超える増加はコレステロール低下作用に比例的な上昇をもたらさない。

1 価不飽和のオレイン酸およびエルカ酸は、食事中で等カロリーの単純炭水化物と置換えるときに血清コレステロール値にほとんどあるいは全く影響しない。

食事中脂肪の変化は血清コレステロールの反応を生じ、それが関連する脂肪のヨウ素価またはヨウ素価の平方根とも相関するのは、ヨウ素価が $2.7S - 1.3P$ と強く相関するときである。

食事脂肪の変化が1 価不飽和または2を超える二重結合を含有する脂肪酸のかなりの違いを伴うときには、血清コレステロールの反応はその脂肪のヨウ素価またはその平方根とは低いか無視できる相関しかない。
